様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：３２６８５
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2016
課題番号：２６７７０１３０

研究課題名（和文）中国古典文献に描かれる井戸・門・橋についてーー境界としての「場」とその周辺ーー

研究課題名（英文）Wells, Gates, and Bridges as Depicted in Classical Chinese Literature: "Places" as Boundaries and Their Surroundings

研究代表者
喜多　藍（山崎藍）（Kita, Ai）

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号：１０７２３０６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：中国古典詩歌や文言小説などを題材として、中国において井戸や門、橋が如何なる空間と認識されていたかを考察し、以下の成果を上げた。（１）井戸・門・橋に関する資料ファイルの作成がおおむね終了した。（２）専門家の協力を得て、2014年7月から8月に中国（武漢）、2016年8月に韓国（金海）でフィールドワークを行い、井戸や門、橋、釣瓶を描いた漢闕や漢代画像石に関する文物資料調査を実施し、成果に反映させた。

研究成果の概要（英文）：Using classical Chinese poetry and literary novels as our subjects, we examined what kind of spaces wells, gates, and bridges are recognized as such in China. The results revealed the following: (1) Creating materials related to wells, gates, and bridges has been mostly completed, on which we published an academic paper. (2) With the cooperation of local experts, from July to August 2014 in China (Wuhan) and in August 2016 in South Korea (Gimhae), we surveyed the literature and collected documentary materials primarily on wells, which are reflected in the discussion.

研究分野：中国文学

キーワード：中国文学　井戸　門　橋

１．研究開始当初の背景

1980 年代以降、民俗学の分野において、境界と認識される「場」の研究が活発に行われてきた。例えば宮田登氏は、日本各地での調査および柳田国男氏などによるそれまでの成果を通して、井戸や橋・辻といった場所では怪異が多く発生していることに着目し、このような場所があの世とこの世の接点、すなわち「境界」と考えられてきたとする。そして「死後井戸端に亡霊が出てくるというのは、井戸を通じてあの世とこの世がつながっていることを示している。井戸はあの世とこの世の入り口になるという考えから、出てくる場所になりやすいのである」と述べる（「妖怪のトポロジー」『妖怪の民俗学――日本の見えない闇――』岩波書店、1985 年）。また飯島吉晴氏は、昔話や年中行事・建築儀礼などを通して日本の厠のイメージを分析し、厠はこの世と異界との「境界的領域」であり、人やものが別のものに変換する空間であると結論づけている（「厠考――異界としての厠――」『竈神と厠神』人文書院、1986 年）。このような境界と認識される「場」の研究は、①「箒」や「籠」といった境界の「象徴物」に関する考察（常光徹「「境界の呪具」――箒――」『学校の怪談』ミネルヴァ書房、1993 年・近藤直也「節分の籠」『日本民俗学』146、1983 年）、②境界で行われる「しぐさ」を取り上げて、その「しぐさ」の意味を検討する研究（常光徹「「後ろ向き」の想像力」（『しぐさの民俗学――呪術的世界と心性――』ミネルヴァ書房、2006 年）、③怪異と遭遇しやすい夕暮れ時と夜明け時が時間の境界であるとする研究（柳田国男「かはたれ時」（『定本柳田国男集』(4)、筑摩書房、1963 年・小松和彦「かはたれ時、たそがれ時――神隠しと隠れんぼのタブー――」（『建築雑誌』106（13-2)、1991-4）などにも応用された。民俗学大系として出版された日本民俗学シリーズ『怪異の民俗学』第 8 巻が『境界』と題して発表され、上述した宮田氏・飯島氏をはじめとした境界研究や境界の理論的研究に関する論文を多数紹介した上で、境界研究の現状について整理・分析を行っていることや（河出書房新社、2001 年、小松和彦編集）、『怪異の民俗学・境界』の出版後も「境界」に関連する論著が継続的に発表されていることからもわかるように（鯨井千佐登『境界の現場』（勁草書房、2006 年など）、「境界」および「境界論」は、今日においても、様々な事象を読み解くための重要なキーワードなのである。

近年、中国文学の領域でも上述の「境界論」を応用した研究が進んでいる（相田洋『異人と市――境界の中国古代史――』（研文出版、1997 年）や、呉裕成（『中国的井文化』天津人民出版社、2002 年）など）。これらでは、主に『太平広記』所収の文言小説や史書に描かれる井戸や橋などについて分析を行い、これらの「場」がこの世と異界との境界としての役回りを果たしていることを指摘している。先行研究の成果は大変示唆に富んでいるが、惜しむらくは、文言小説や史書以外の、井戸や橋を描いた中国古典詩歌や他の文献資料にあまり関心を払っていない。また、これらの先行研究で採り上げられていない作品も少なくない。

２．研究の目的

1 で指摘した通り、中国の井戸・門・橋に関しては、文言小説や史書などを用いた先行研究で、この世と異界を繋ぐ境界として描かれているとの指摘がある以外、ほとんど検討がなされていなかった。しかしこれらを題材にした文献は数多くある。中国古代において境界となる「場」にどのようなイメージが附されていたかを加味することで、作品の新たな風貌を明らかにし、そこに込められた感慨をより正確に理解出来ると思われる。

そこで本課題では、井戸と関わり合いが深

い「釣瓶・壺」に関する作品を分析し、今までの研究と合わせて中国における井戸へのイメージを総括した上で、新たに門・橋を検討課題とし、成果を発表することを目的として設定した。

３．研究の方法

これまで採用した研究手法は、

①民俗学などで培われた「境界論」を用いて分析を行う。

②厠や井戸を直接的に描いた作品に加え、空間には欠かせない道具（井戸ならば、轆轤など）についても検討を進め、より多角的視点から空間イメージを解明する。

③ある「場」を中心にその周囲を「めぐる」行為など、一定の形式をもって繰り返し行われるしぐさの意義を明らかにする。

以上三点が挙げられる。これらの手法は、従来中国古典文献を解読する際にはほとんど取り入れられていない。中国古典詩や文言小説研究に新たな領域を開拓するのみならず、中国思想・民俗学・東アジア文学などの関連分野にも裨益し得る多分野横断的な研究であり、イラン文学が専門の井本英一氏の論文（「聖域周回の起源」『イラン研究』9、2013 年）にも大きく引用・採り上げられていることはその証左であろう。

本課題ではこの研究手法を応用し、さらに発展させるべく、新たに門・橋を研究対象に加え、従来ほとんど研究が進んでいなかった、唐詩などの中国古典詩歌を中心に、中国古典文献に描かれる井戸・門・橋に関する作品解釈を行った。その際、先行研究で検討対象とされる機会が多かった文言小説や史書に留まらず、経書・歴史書・地方誌・中国周辺の東アジア文献も使用しつつ、民俗学・宗教学的観点を取り入れるという、新たな手法を採用した。

以上のような方法論は、机上の研究だけではなく、現地調査も欠かせないことから、井戸・門・橋が描かれた画像石や画像磚などの考古物が多く出土している中国にフィールドワークに赴いて調査を行い、中国古代におけるそれぞれの「場」へのイメージ分析に応用した。

４．研究成果

本研究における成果は以下の通りである。

（１）井戸・門・橋に関する資料ファイルの作成、データ整理

『四庫全書』や『四部叢刊』『古今図書集成』『先秦漢魏晋南北朝詩』『全唐詩』『全宋詞』といったデータベースや CD-ROM、他分野の資料などを用い、「井」「瓶」「轆轤」「桔槔」「門」「橋」といった、井戸・門・橋のキーワードを詠んだ作品を収集した独自の資料ファイルを項目別に作成・分類を進め、データの一部はすでに完成した。データを用いた成果のうち、井戸に関するデータの一部は雑誌論文などで発表を行い、中国における井戸描写の特徴や日本との違いなどを明らかにした。また 2017 年 6 月に、学会発表（査読有り）の形で、井戸に関する成果を公表することが決まっている。

門・橋の成果は、2017 年度内に訳注の形での公表を目指している。

（２）フィールドワークによる資料収集・文献調査

井戸や門、橋、釣瓶を描いた漢闕や漢代画像石に関する研究を進めるべく、2014 年 7 月から 8 月に、二松学舎大学専任講師や青山学院大学非常勤講師らとともに武漢に赴いた。その際、孟華平湖北省博物館副館長・張成明研究員・劉徳銀荊州博物館副館長・韓楚文研究員らと面会し、現地考古文物に関して専門的理論や最新の研究現状を直接教授してもらう機会を得た。また、殷代の遺跡である盤龍城遺跡の現地調査や湖北省博物館所蔵の文物、荊州博物館所蔵の文物の分析を行った。

また 2016 年 8 月 22 日から 8 月 25 日まで大韓民国でフィールドワーク、資料調査をおこなった。8 月 23 日は国立金海博物館で井戸から出土した木簡（現物）を調査した他、高麗大学の朴賢淑先生と懇談、韓国の出土文物・文学研究の現状や展望を直接教示頂いた。これらのフィールドワークによる資料収集の成果は発表論文などにも反映されている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

「元稹悼亡詩≪夢井≫新釋――以中國古代井觀爲視點――」山崎藍『国際漢学研究通訊』第 11 期（査読有）、2016 年、pp78-97

「梅潭の交流関係――依田学海・松浦詮――」『幕末漢詩人杉浦誠『梅潭詩鈔』の研究』新典社（市川桃子・遠藤星希・加納留美子・高芝麻子・三上英司・山崎藍）、（査読有）、2015 年、pp579-594

『王安石及び宋詩別裁五言絶句訳注』お茶の水女子大学附属図書館(E-book サービス)（和田英信・大戸温子・加納留美子・許喬・佐野誠子・三瓶はるみ・水津有里・角祥衣・高芝麻子・鄭月超・松原巧・森山結衣子・山崎藍）（共著）、訳注（別裁-39 陸游「柳橋晩眺」）（査読有）2015 年、pp226-227

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計１件）
「日中井戸異聞」（『とびらを開ける中国文学』（仮題））2017 年、ページ未定

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者　喜多 藍(山崎 藍)(Kita Ai)
明星大学・人文学部・准教授

研究者番号：10723067